

1. 内政

▼与党連合AEI内の対立に関する動き

- ・16日、自由民主党及び共産党は、両党による連合形成の可能性をそれぞれ否定。
- ・16日、ティモフティ大統領は、フィラト首相(自由民主党党首)と会談し、内政状況に関し協議。フィラト首相は、政府は正常に機能しており、与党連合AEI内の紛争による政府の活動への影響はない旨発言。同日、ティモフティ大統領は、与党連合各党は問題解決のための協議への復帰を約束したとして、EU統合のため各党が新たな合意に達することへ期待を表明する旨の声明を発表。
- ・18日、フィラト首相は、自由民主党はAEIの新合意文書案を作成した旨発表。一方、19日、ギンプ自由党党首は、新たな合意案に賛同する意向はない旨発言。
- ・20日、ギンプ自由党党首は、汚職問題の責任は政府にあるとしフィラト首相の辞任を要求。21日、ルプ議会議長(民主党党首)は、フィラト首相退任を条件に議長を辞職する用意がある旨発言。
- ・21日、ティモフティ大統領は、与党連合3党の代表者との会合を開催し、与党連合の内の対立の克服、与党連合の維持を働きかけ。
- ・22日、ルプ議会議長及びギンプ自由党党首は、フィラト首相の辞任を求める旨発言。一方、フィラト首相は、首相を辞任する意向はない旨表明。

▼汚職事件に関する動き

- ・16日、フィラト首相は、15日に辞任したブラホドニク前議会第一副議長(民主党第一副党首)による汚職の責任を追究する意向である旨発言。
- ・18日、汚職の疑いにより国家反汚職委員会の取り調べを受けたウサトゥイ保健相(自由民主党)は、同取り調べは職権濫用であるとし検察に告訴する意向を表明。同日、自由民主党は、同取り調べの違法性を指摘し、同党は同委員会幹部の不信任決議を採択する意向である旨表明。
- ・18日、国家反汚職委員会は、フィラト首相を含む要人の電話の会話が盗聴されメディアに流出した問題で調査を開始。
- ・20日、検事総局は、ネグルツァ財務相(自由民主党)を職権濫用の疑いにより14日に起訴した旨発表。同日、同財務相は、同起訴は根拠のないものであると考える旨発言。

2. 経済

- ・19日、国家統計局は、2012年にモルドバ国内の宿泊施設を利用した外国人観光客は8万9,000人であった旨発表。

3. 外政

▼EU3か国外相の来訪

- ・19日、ティモフティ大統領は、来訪したヘーグ英外相、シ

コルスキ・ポーランド外相及びビルト・スウェーデン外相と会談し、モルドバの欧州統合路線に対する3国の支持に謝意を表明し、現在の内政上の問題にかかわらず国内改革を加速的に進めることを保証する旨発言。ヘーグ外相は、モルドバは過去3年の間に顕著な成功を収めたとする一方、残された課題も多い旨指摘。

- ・19日、フィラト首相は、EU3か国の外相と会談において、モルドバは民主主義及び法の支配の強化、司法の独立及び汚職との闘いのための改革を継続する旨強調し、11月の東方パートナーシップ首脳会合におけるEUとの連合協定署名を期待している旨改めて表明。ヘーグ外相及びビルト外相は、モルドバは東方パートナーシップ参加国のリーダーであり、改革の速度を維持することが重要である旨発言。

▼ドンブロウスキス・ラトビア首相の来訪

- ・20、21両日、ドンブロウスキス・ラトビア首相は、モルドバを訪問し、ティモフティ大統領、フィラト首相、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相及びルプ議会議長とそれぞれ会談を実施。双方は、モルドバの欧州統合問題及び両国協力関係発展の必要性に関し協議。ドンブロウスキス首相は、モルドバの欧州統合路線を支持する旨表明し、モルドバは東方パートナーシップ参加諸国中最大の進展を達成した一方で、EU加盟には更に多くの変革が必要である旨発言。

▼その他

- ・17日、ティモフティ大統領は、シューベル駐モルドバEU代表部大使と国内の政治状況に関し協議し、現政府はモルドバの発展のため欧州統合路線を維持する旨発言。
- ・EU外務理事会は、18日に採択された東方パートナーシップに関する結論文書において、モルドバとの査証免除交渉の進展を歓迎し、11月の首脳会合までにモルドバ、グルジア及びアルメニアとのDCFTAを含む連合協定交渉が終結する可能性に言及。
- ・20日、フィラト首相は、デ・グフト貿易担当欧州委員と電話会談し、モルドバの欧州統合のための中長期的行動等に関し協議。
- ・20日、チェバン経済省エネルギー安全局長は、モルドバガスはガस्पロムが2012年末に提示した沿ドニエストル地域の2009年のガス料金の負債4億3,500万ドルの請求の支払いを行う意志はない旨発言。

4. 沿ドニエストル

▼「5+2」者公式会合の開催

- ・18、19両日、本年第1回目の沿ドニエストル紛争解決に向けた「5+2」者公式会合がリヴィウにおいて開催され、当事者のカルポフ・モルドバ国家再統合問題担当副首相、シュタンスキ沿ドニエストル「外相」、仲介者及びオブザーバー

が出席。デシツァOSCE議長国特別代表が議長を務め、参加者は、人、車両及び商品の移動の自由等の人道及び経済分野の問題に関し協議し、政治及び専門家レベルでの交渉を継続する旨確認。一方、ウクライナ及びロシア国民の移動の自由、ビチョークグラ・ビルクイ橋の軍事目的利用の禁止、国外で通用する沿ドニエストルの車両用ナンバー発行に関する問題は合意に至らず。次回会合は5月23、24日にオデッサで開催する旨決定。

▼その他

- ・19日、シコルスキ・ポーランド外相及びビルト・スウェーデン外相は、沿ドニエストルを訪問し、ベンデル市内を視察。
- ・ロシアは、22日に承認された外政の新方針において、モルドバの主権及び領土一体性、沿ドニエストルの特別な地位の確定の原則に基づく沿ドニエストル問題解決へのロシアの関与に言及。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)